

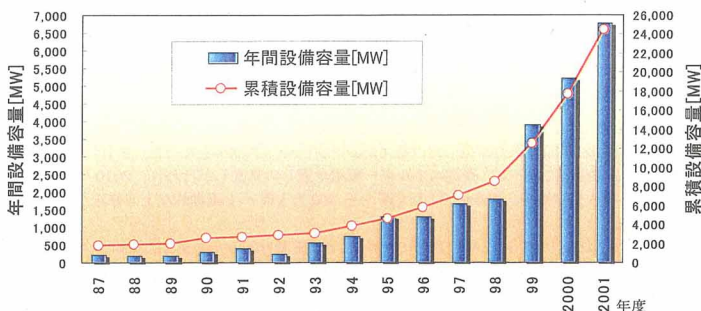


図1 世界の風力開発の推移

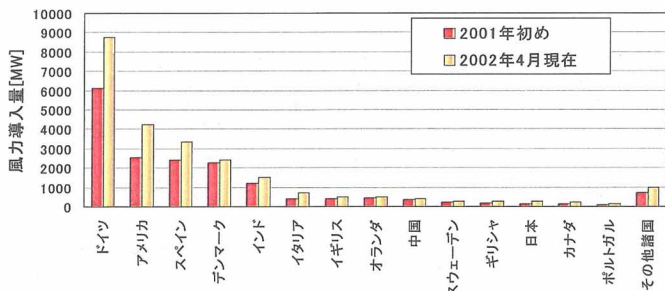


図2 国別導入状況

つあるのが現状である。

わが国においても、これまで政府・NEDOによる導入促進政策や電力事業者による風力電力の優遇買い上げ自主メニューの設定など、いくつかの効果的な施策が講じられて、図3に示すように1990年代の中期以降、風力発電の導入量は急増している。

現在、再生可能エネルギーの導入基準制度である「RPS」(Renewables Portfolio Standard)など、新たな制度展開も始まりつつが、特に必要な施策は新しい導入制度の実効性確保である。したがって、政府は一部補助金制度の存続や新制度の効果に対するモニタリングの実施などにより、バランスのとれた各種新エネルギーの導入拡大を図ることが肝要である。

また、従来、わが国に設置されている系統連系方式の大規模風力発電に関しては、デンマーク、ドイツ、オランダなどからの輸入機が大半を占めているが、わが国固有の強風や複雑地形に起因する変動風などによりブレードの損傷を初めとする各種の故障が発生し始めている。このことは、わが国の地形、風況、社会基盤に適合する日本型風車を早急に開発することが必要であることを物語っている。